本当に良かった」と言っていた一言です。これがずっと私の胸の中にあり、人に対して私が何を出来るかを考えた時、お客様から喜ばれ、ありがとうと言われる仕事をしたいと思ったことがキッカケです。今では沢山のお客様から感謝の言葉をいただける様になり、時には一緒に笑い、時には一緒に涙を流し、一日一日を一人一人のお客様に寄り添うお仕事をさせて頂いております。
最後に大好きな言葉を紹介させて頂きます。「ありがとうの数だけ、人は優しくなれる」「ごめんね の数だけ人はかしこくなる」「さよなら の数だけ人は愛を知る」この言葉は、この先もずっとずっと年齢を重ねても常に胸にしまっておきます。
ロータリークラブに仲間入りさせて頂いたので、奉仕活動を通じて色々な方との繋がりを増やしていき、自分の知らない世界を広げていきたいと思います。

■達輝施工管理株式会社
鯨井 達生

●生い立ち
さいたま市西区生まれ。実家は父がプロパンガス会社、母が美容室を経営している中、次男として育った。幼少期は、両親ともども実家に人を呼ぶのが大好きで、社長から従業員までたくさんの人が常に遊びに来ていた。その会話を聞いて育ったことが自分にとっての帝王学であったと思っている。
母親から幼稚園の時には「次男で生まれた以上自分で会社を立てて一国一城の主となっていくものだ」ということを言われていた。特に、「勉強は社会人になってから嫌というほどやらせるから、まずは人に好かれるようにしっかりと挨拶ができる子になりなさい」と、教育を受けていた。
父親は、子育てに全く無関心でいたが、その無関心さが、自分自身で考えて動けるようになった大きな要因の一つだと思っている。また、役職・立場に全く影響をされず、どんな人とでもフラットに付き合う姿を自分に見せてくれたことがいい影響であったと、感謝している。
習い事としては、三歳から十五歳まで空手を習い、全国大会に出場するほど真剣に取り組んでいた。そこで学んだことは、弱いものを守ること、人には優しくすること、物事に真剣に取り組むことであった。
学生時代は、学校の勉強が大嫌いでひたすら友達と遊ぶことを優先していた。その中で、バスケットボールやスキーなど体を動かすことも大好きであった。そこで仲間となった友達や後輩が今の自企業に大きな助けとなっている。
●企業について
大学卒業後に実家の会社に勤め、三十歳のときに「達輝施工管理株式会社」を設立。実家の会社を辞めるときには、辞めることで迷惑をかけたくなかったので、逆に会社に対しての「退職金」を払い、手元に全財産 50 万円だけを残し、全額会社の起業に使った。その時、「明日からどうご飯を食べていこうか…」と考えていたことが、今となってはいい思い出である（笑）。
機械式の駐輪場・駐車場の工事会社として始め、それに付帯するアスファルト、コンクリート、外構や土木工事をするようになり、建物の解体工事を手掛けるようにもなった。その後、駐輪場・駐車場の運営管理や、不動産業を営むようにもなった。
会社の理念としては、人様に対して「親切・便利・丁寧」をモットーに、ブロック一つの補修から、住宅の草むしりまで、関東一円、感謝しながらかけずり回っている。
従業員に関しては、学生時代に一緒に遊んだ仲間や後輩たちが働いてくれていて、本当に助けられている。
●現在・今後について
色々な団体に所属し、奉仕活動や地域の経済活動も行っている。人と人のつながりの大事さを知る。それぞれの活動が人を守り、地域を作っていき、社会活動での一翼を担っていることがよく分かって来た。
自企業の方は、色々な人に助けられどうにか順調に経営は行うことができているが、課題的なこともたくさん残っている。それらを解決するためには、これからも、さらに自己研鑽に努め、安定した自企業の経営をし、従業員にも愛される会社となり、社会や人に必要とされるよう頑張っていきたいと思っている。
大宮西ロータリークラブの歴史と伝統の中に入らせていただいたことの大変感謝しこれからも皆様と仲良くさせていただければ幸いです。

いにしえスピーチ

■有限会社 中村畜産
中村 雅之

多分、今日の例会参加の中で私が一番年寄りなんですが、入会年次としては清水恒信さん藤池誠治さんが先輩です。確か、清水さんの会員番号が170番、藤池さんが177番でしょうか。あれから約35年。今の会員番号は550～560番になっているんですからすごいです。
土屋プログラム委員長とは商売上の付き合いもあるし、私が会長だった時に現会長の小林さんから税務署長として卓話をして貰った義理もありますので、今日の話を引き受けました。
今日、交換留学生として、５年前のソフィアさんと、今年度のエスキル君がおられて、例会も盛り上がっていますが、この交換留学という制度はロータリーの奉仕活動の中でも「肝」の一つと思います。私たちが若い頃からやっていました。当時も受入れが決まると、先ほどの先輩に加え、斎藤照夫さん、木本さんら５～６人の家族が集まってホストファミリーとして担当順とか、何をしてやるかとかよく議論したものです。結果として会員の家族同士の横のつながりも強くなったんです。
女性会員についても思い出があります。大宮西クラブは歴史があるだけに「女性は入れない」という風潮が残っていました。しかし、周りのクラブで受け入れが始まっており、林先生とか、当時の重鎮と真剣に議論しました。受入れも「可」という空気になった頃、たまたま福田和子さんが所属していたクラブが解散することになり、「それなら福田さんに入ってもらおう」とお伺いを立てに行ったわけです。それから今は女性会員が 15 人ですか、大宮西クラブの誇りです。
私が会員になった当初、凄いお歴々がいる凄い組織、というイメージがあり、そごうへ行ってスーツを５着新調しました。しかし先輩から「毎回着替えてこなくていいんだ」と言われてつるしのジャケットで通いました。最初は指輪とかブレスレットなんかも身に付けて気負っていましたが、周りの会員の様子を見て、そっと外したりしました。
縦社会のイメージもあって、先輩に可愛がって貰いました。夜になると、毎晩お誘いがありました。毎晩です。「今日は私が払います」と言うと「10 年早い」と言われ付いて歩きました。実際 10 年経つと自然と面倒見る側にいました。
よく、昔はこうだったとか言いますが、昔と同じようにやるわけにはいきません。ただ、昔のことも是非参考にして、ロータリーを大切にやってもらいたい。
●東日本大震災
2010 年小沼年度のことです。東日本大震災が発生。釜石 RC へ、300 万円を寄付することになりました。自分と、清水恒信会員、内山泰成会員との３名で、夜中の２時に出発し、翌日の 10 時に到着しました。津波の現場を見た時は、あまりの凄さに圧倒されました。大宮を出る時、「300 万円のお金は、ロータリアンみんなの気持ちの重い 300 万円」と車の中で話しながら来ましたが、現場を見た途端「300 万円では０がひとつ少ないよ」と思いました。例会場に入り目録を渡し「何に使っていただいても結構です」と言いました。のちに「震災孤児のために使い、大変助かりました」と釜石 RC より２名のかたに、50 周年記念式典 祝賀会の席でごあいさつをいただきました。